

信州大学人文学部 令和6年度（2025年3月）卒業生の
教育目標達成に関する調査結果 報告書

（最終報告書 令和8年1月5日）

— 目次 —

1. 調査概要	2
2. 卒業生アンケート分析結果	3
(1) 所属コース	4
(2) 教育目標の達成状況	5
(3) 人文学部の教育内容等に関する評価	10
(4) 在籍中に経験した国際交流・留学/取得した資格	13
(5) 人文学部の卒業論文・教育方針と体制についての感想	17
(6) リモート授業・ICT環境の評価	23
3. 卒業生アンケート総括	32

1.調査概要

本報告書について

信州大学人文学部における教育活動を振り返り、次年度以降の教育活動の改善を行う際の参考資料とするため、令和6年度(2025年3月)卒業の人文学部生を対象にアンケートを実施した。

本報告書はこれらアンケートの結果について示すものである。

卒業生アンケートについて

調査方法： 令和6年度の信州大学人文学部卒業生を対象に、卒業論文口頭試問または卒業論文発表会にて、各分野ごとに回答を依頼した。分野としての実施が困難な場合は個別に回答依頼をした。

調査期間： 令和7年3月21日～3月31日

回収数： 102件 回収率：86.4% (102人/118人)

調査項目：

- ・所属コース
- ・人文学部の教育目標に対する達成状況の評価
- ・人文学部の教育内容等に関する評価
- ・人文学部に在籍中に経験した国際交流・留学、取得した資格
- ・人文学部に在籍したことによる進路選択への影響
- ・卒業論文執筆についての感想
- ・人文学部の教育方針・体制・学習環境についての感想
- ・進級・学び・研究室での指導等についての感想
- ・リモート授業の評価と今後の実施回数
- ・人文学部のICT環境の評価

分析に関する注意事項について

①過去の調査との比較について

経年での変化を見るため、必要な項目について本年度含め過去5年間（一部3年間）に行ったアンケート結果についても記載した。

・過去年度回収数 【 R2年度：79件 R3年度：31件 R4年度：108件 R5年度：123件 】

②所属分野別の分析について

所属分野による回答結果の差を見るため、所属コースを以下の3つのグループに分類し、教育目標の達成状況および人文学部での教育内容等に関する評価についてそれぞれ分析を行った。

グループ	所属コース
哲学芸術系	哲学・思想論コース
社会心理学系	文化情報論・社会学コース 心理学・社会心理学コース
語学歴史系	歴史学コース 比較言語文化コース 英米言語文化コース 日本言語文化コース

③その他

- ・回答結果の割合「%」は、有効回答数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入している。そのため、単数回答であっても合計が100%にならない場合がある。
- ・図表内の「n」は Number of case の略で、該当する設問の回答者数を表す。無回答を除いて集計しているため、設問ごとに回答者数が異なる。
- ・1人の回答者が2つ以上の回答をすることができる複数回答の設問では、回答数の合計を回答者数(n)で割った比率を示しており、比率の合計は100%を超える。

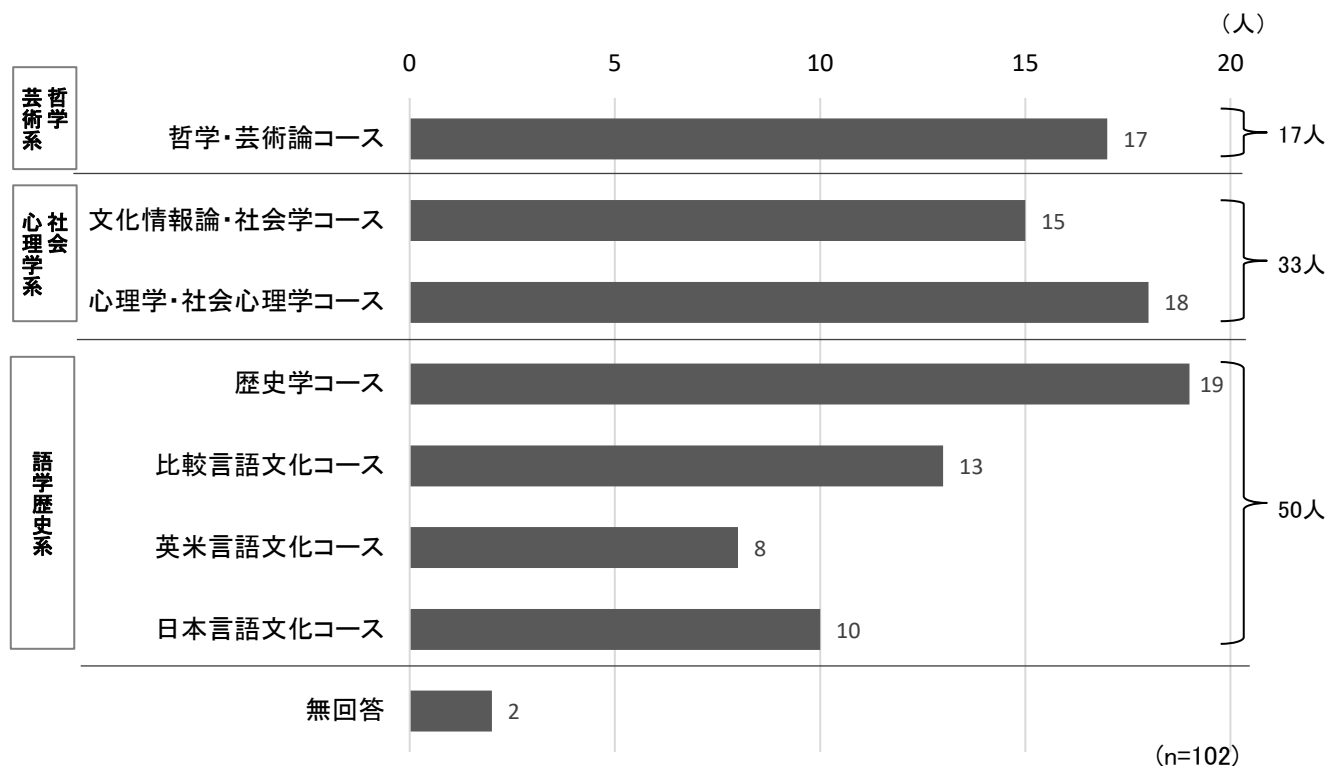
2. 卒業生アンケート分析結果

(1) 所属コース

所属コース

質問番号1：あなたの所属コースをお答えください。 《単数回答》

- 回答者の所属グループは、「哲学芸術系」が17人、「社会心理学系」が33人、「語学歴史系」は50人となっている。



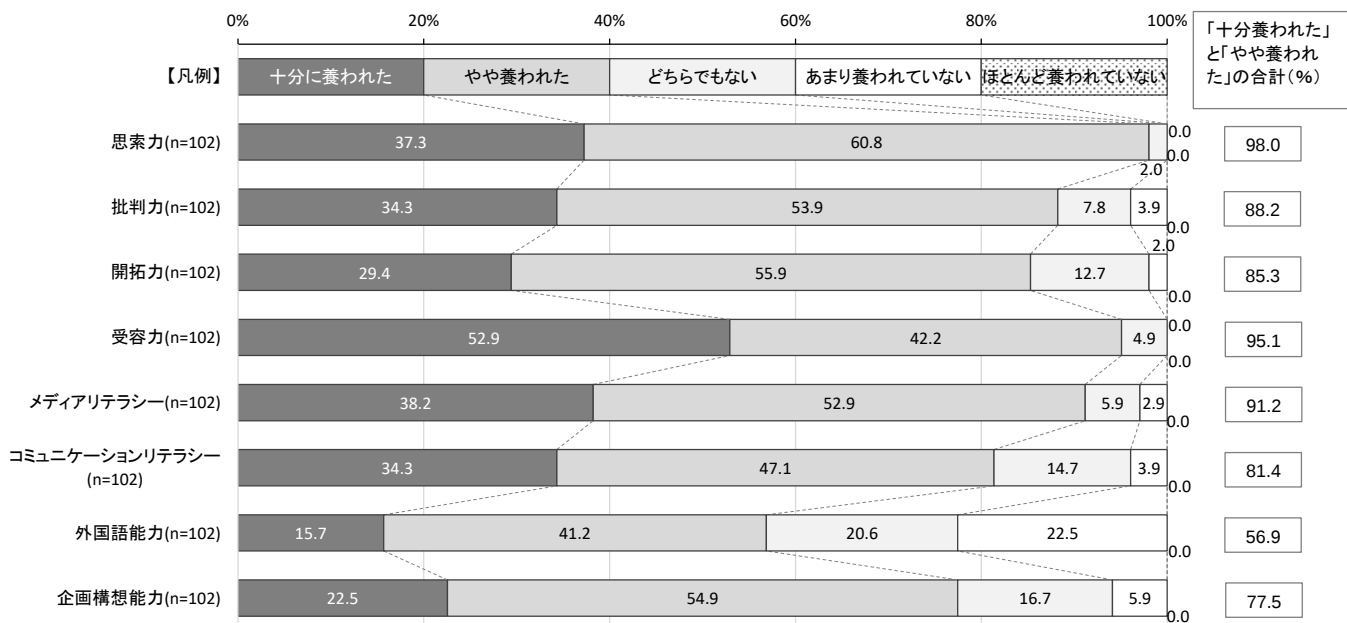
(2) 教育目標の達成状況

教育目標の達成状況

質問番号2：人文学部の教育目標について、人文学部に在籍することで、あなたは、どのくらい養われたと思いますか。

《単数回答》

- 人文学部の教育目標について、「十分に養われた」「やや養われた」を合わせた割合は、「思索力」において98.0%と最も高く、次いで「受容力」が95.1%となっている。一方、「外国語能力」においては、56.9%と最も低くなっている。



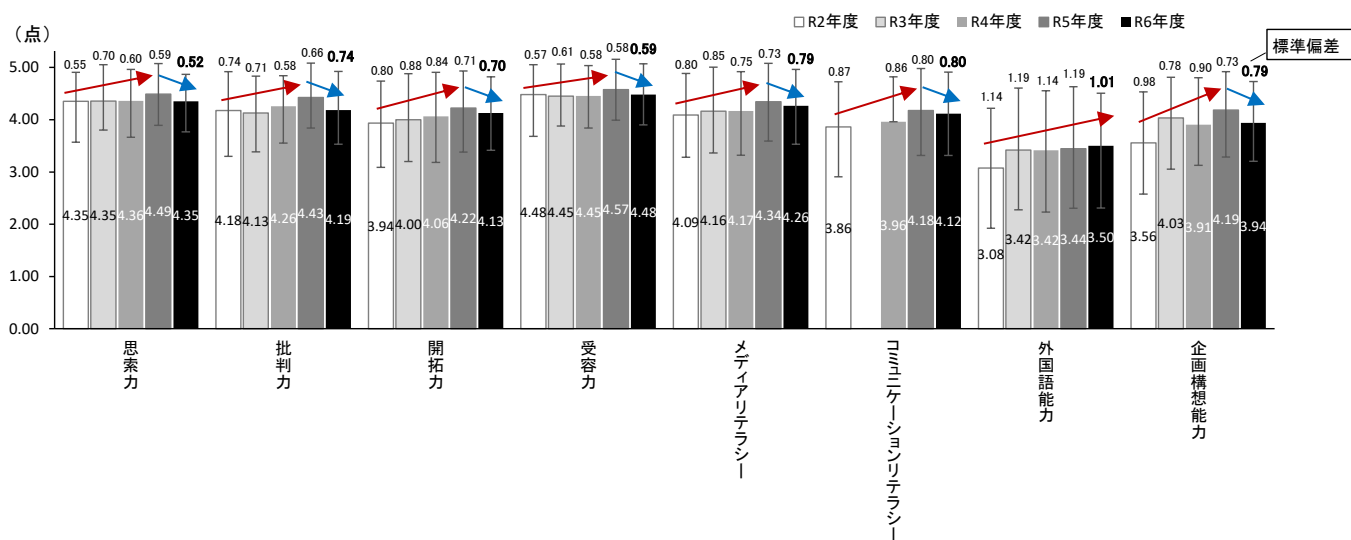
アンケート上の表現との対応

- ・思索力：自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力
- ・批判力：変容する社会を冷静に分析し、時流に迎合することなく価値判断できる批判力
- ・開拓力：過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力
- ・受容力：異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力
- ・メディアリテラシー：情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシー
- ・コミュニケーションリテラシー：自己の主張を的確に表現できる高度なコミュニケーションリテラシー
- ・外国語能力：グローバル社会において、多様な文化を理解し自らの文化を発信できる外国語能力
- ・企画構想能力：領域横断的な事柄に対する問題解決能力、および創造的な企画構想能力

教育目標の達成状況 《得点化》《過年度比較》

質問番号2：人文学部の教育目標について、人文学部に在籍することで、あなたは、どのくらい養われたと思いますか。
《単数回答》

- 昨年度までは全ての項目において「十分に養われた」を満点とする得点の平均点が上昇傾向にあったが、今年度はほとんどの項目（「外国語能力」を除く7項目全て）において令和5年度よりも低くなっている。
- 標準偏差については、例年と同様に、「外国語能力」が比較的大きく、「思索力」「受容力」が比較的小さくなっている。



※「十分に養われた」を5点、「やや養われた」を4点、「どちらでもない」を3点、「あまり養われていない」を2点、「ほとんど養われていない」を1点として得点化した。

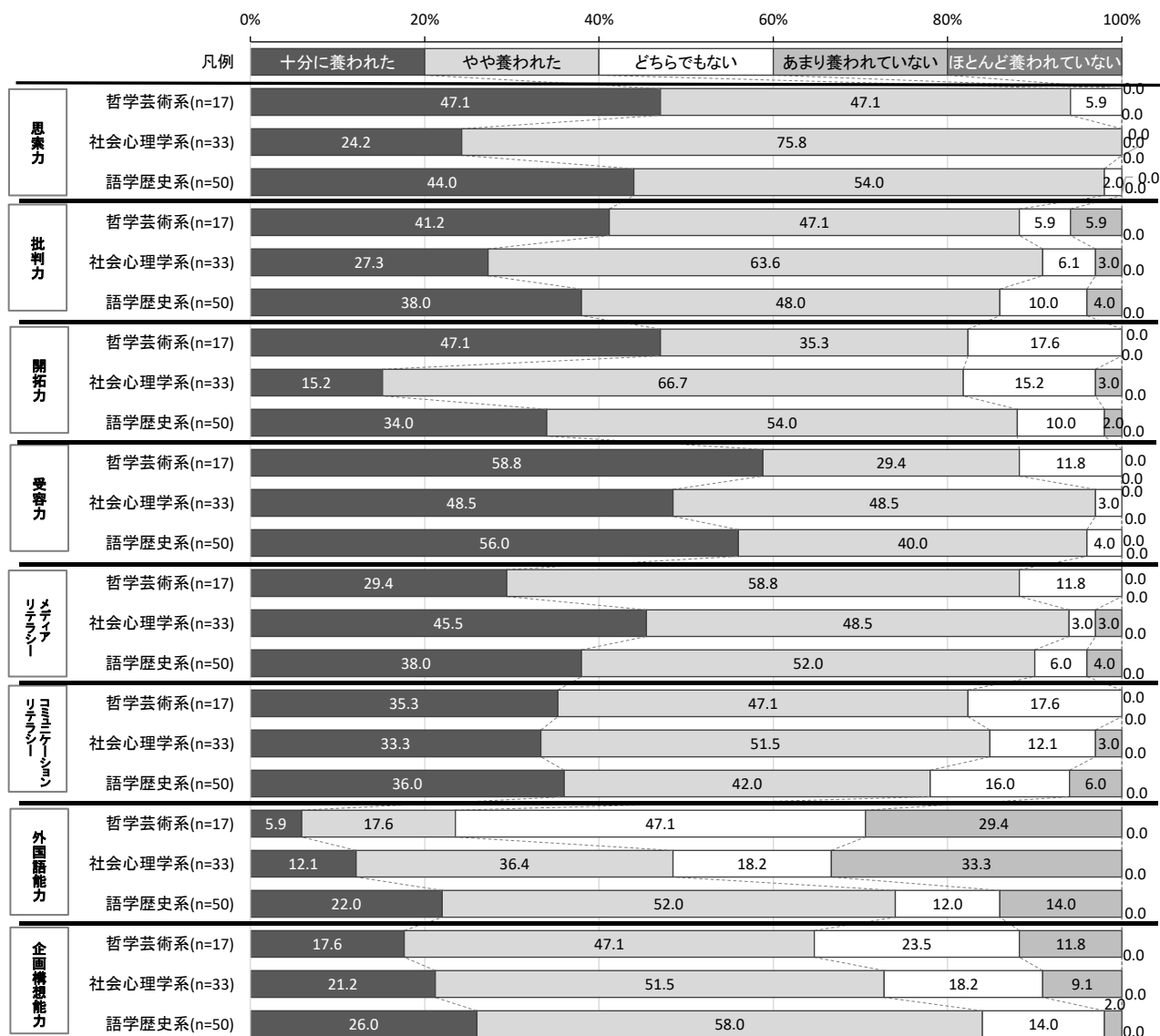
※R3年度は「コミュニケーションリテラシー」について聞いていないため、得点を示していない。

所属分野ごとの教育目標の達成状況 《クロス集計》

質問番号1：あなたの所属コースをお答えください。 《単数回答》

質問番号2：人文学部の教育目標について、人文学部に在籍することで、あなたは、どのくらい養われたと思いますか。
《単数回答》

- 人文学部の教育目標について、「十分に養われた」と回答した割合を所属グループ別に比較すると、哲学芸術系は、「思索力」「批判力」「開拓力」「受容力」が3グループの中で主に高くなっており、「思索力」「受容力」は「語学歴史系」も同程度の割合を示している。一方で、「外国語能力」は特に低くなっている。
- 社会心理学系は、「メディアリテラシー」が他の分野と比べて「十分に養われた」と回答した割合が高くなっている。一方で、「思索力」「批判力」「開拓力」は他の分野と比べて特に低くなっている。なお、これらの項目における「やや養われた」の回答割合は他のグループに比べて高く、「十分に養われた」と合わせると他のグループと同程度の割合を示している。
- 語学歴史系は、「外国語能力」「企画構想能力」が3グループの中で「十分に養われた」と回答した割合が主に高くなっている。



国際交流等の経験の有無ごとの教育目標の達成状況 《クロス集計》

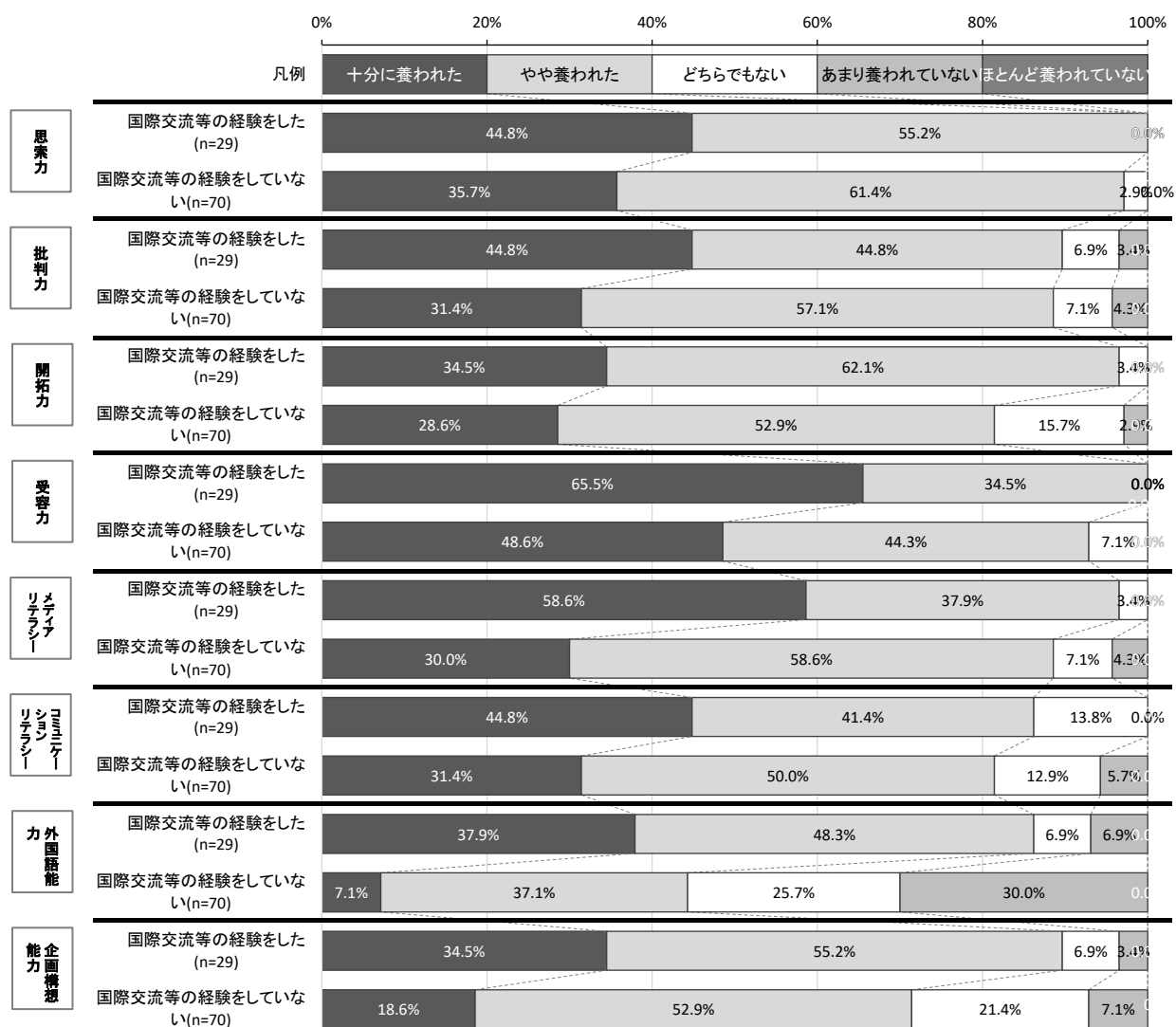
質問番号2：人文学部の教育目標について、人文学部に在籍することで、あなたは、どのくらい養われたと思いますか。

《単数回答》

質問番号4：人文学部に在籍中、あなたが経験した国際交流・留学はありましたか。 《複数回答を単数回答化処理》

※質問番号4の集計結果はP.13に掲載。

- 国際交流等の経験した層は、経験していない層に比べ、人文学部の教育目標はいずれも「十分に養われた」とする割合が高くなっている。特に、「十分に養われた」とする割合が、経験した層の割合が経験していない層に比べて20ポイント以上高い項目は、「外国語能力」「メディアリテラシー」である。「十分に養われた」「やや養われた」の合計で10ポイント以上経験した層の割合が高い項目は、「開拓力」「企画構想能力」である。



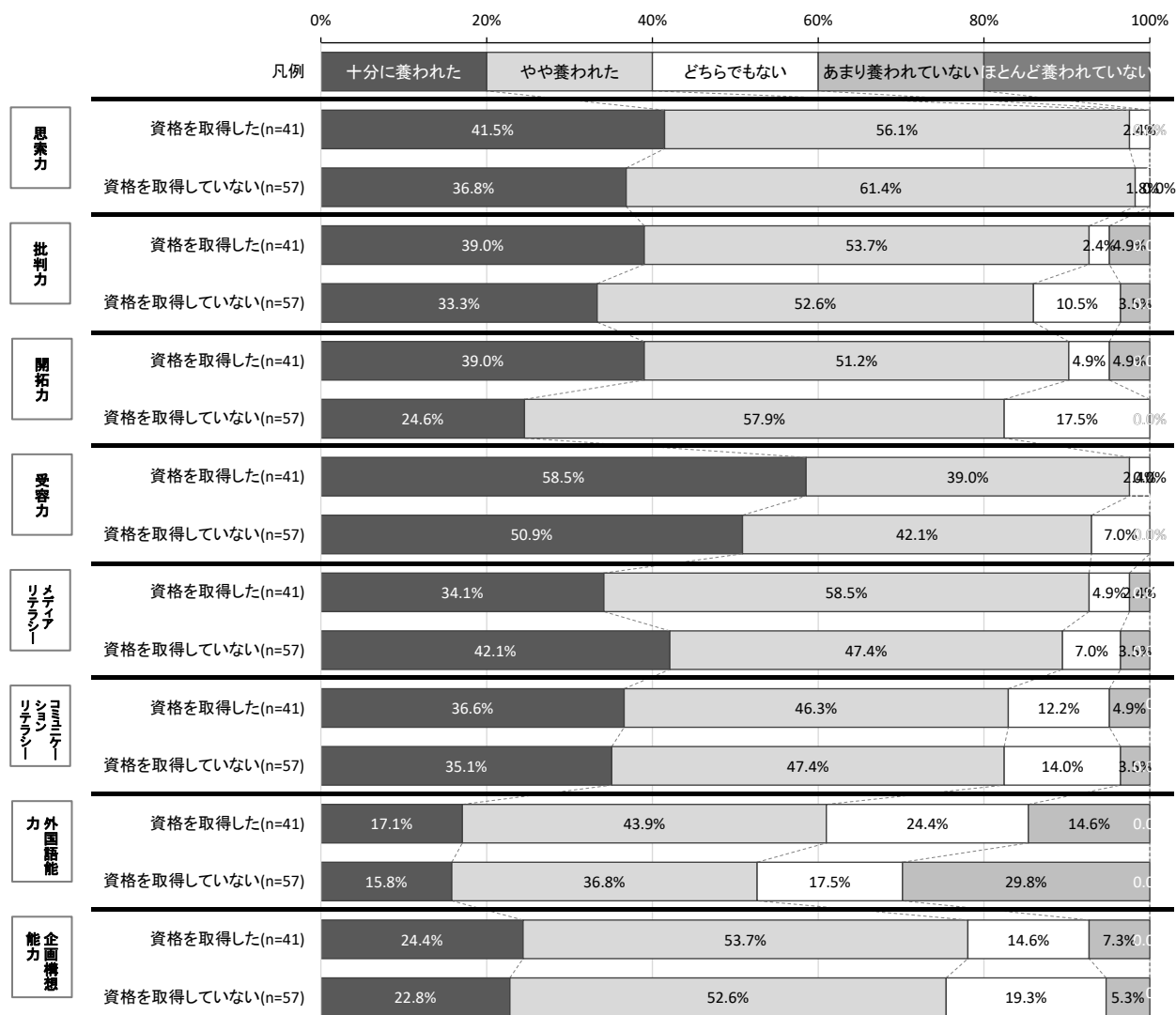
資格取得の有無ごとの教育目標の達成状況 《クロス集計》

質問番号2：人文学部の教育目標について、人文学部に在籍することで、あなたは、どのくらい養われたと思いますか。
《単数回答》

質問番号5：人文学部に在籍中、あなたが取得した資格はありましたか。《複数回答を単数回答化处理》

※質問番号5の集計結果はP.13に掲載。

- 人文学部の教育目標のうち、「十分に養われた」とする割合が、資格取得した層の割合が取得していない層を上回っている項目は、「開拓力」「受容力」となっている。「十分に養われた」「やや養われた」の合計で10ポイント以上経験した層の割合が高い項目はない。

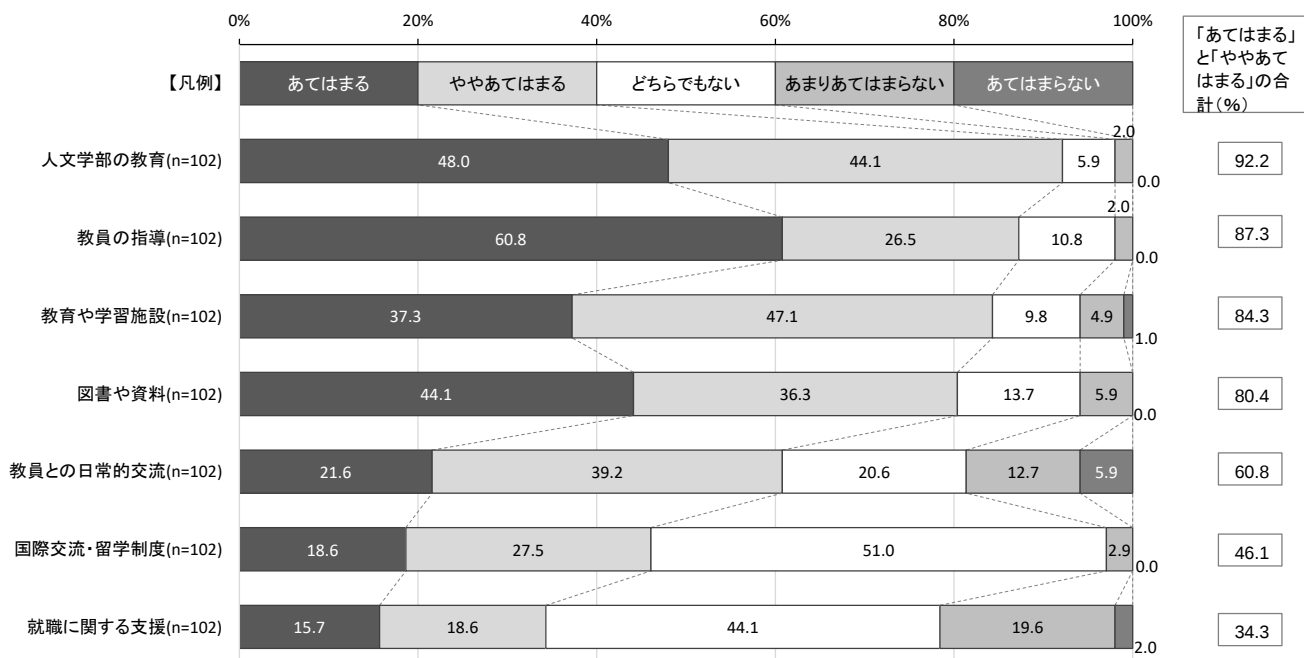


(3) 人文学部の教育内容等に関する評価

人文学部の教育内容等に関する評価

質問番号3：人文学部の評価に関する以下の項目は、あなた自身にとって、どのくらいあてはまりますか。《単数回答》

- 人文学部の教育内容等に関する評価に関して、「あてはまる」「ややあてはまる」の割合の合計をみると、「人文学部の教育」が92.2%と最も高く、次いで「教員の指導」が87.3%となっている。一方、「就職に関する支援」は34.3%と最も低く、次いで「国際交流・留学制度」が46.1%となっている。



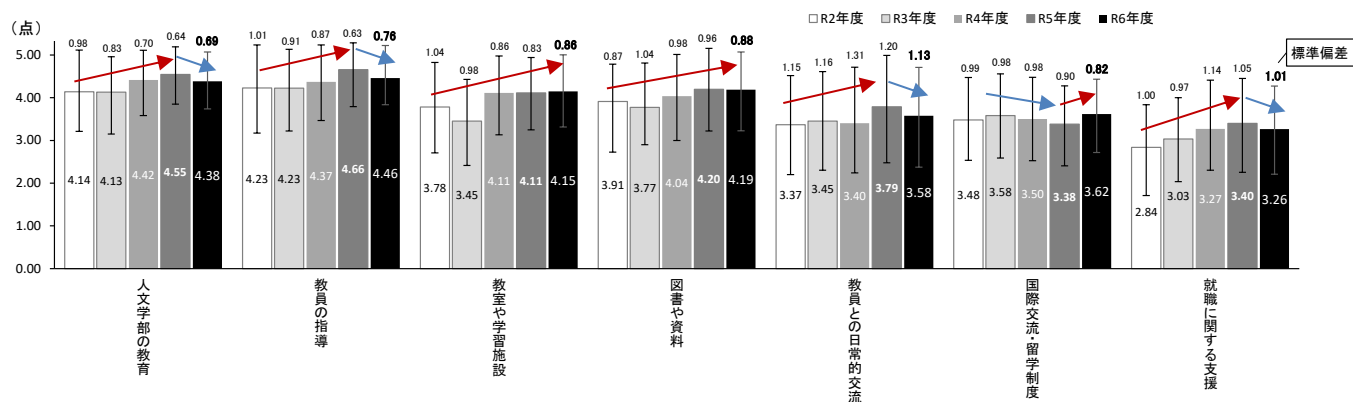
アンケート上の表現との対応

- ・人文学部の教育：人文学部の教育に満足できた
- ・教員の指導：教員の指導は十分であった
- ・教育や学習施設：教育や学習施設に満足できた
- ・図書や資料：図書や資料に満足できた
- ・教員との日常的交流：教員との日常的交流があった
- ・国際交流・留学制度：国際交流・留学制度は充実していた
- ・就職に関する支援：就職に関する支援に満足できた

人文学部の教育内容等に関する評価 《得点化》《経年比較》

質問番号3：人文学部の評価に関する以下の項目は、あなた自身にとって、どのくらいあてはまりますか。《単数回答》

- 「あてはまる」を満点とする得点は、令和5年度まで「国際交流・留学制度」を除く全ての項目において上昇傾向にあったが、令和6年度はいずれも下降もしくは横ばいとなっている。一方、令和3年度以降下降傾向にあった「国際交流・留学制度」は、直近5年間の中で最も高い得点となっている。
- 標準偏差については、例年と同様に、「教員との日常的交流」「就職に関する支援」が比較的大きく、「人文学部の教育」が比較的小さくなっている。



※「あてはまる」を5点、「ややあてはまる」を4点、「どちらでもない」を3点、「あまりあてはまらない」を2点、「あてはまらない」を1点として得点化した。

アンケート上の表現との対応（再掲）

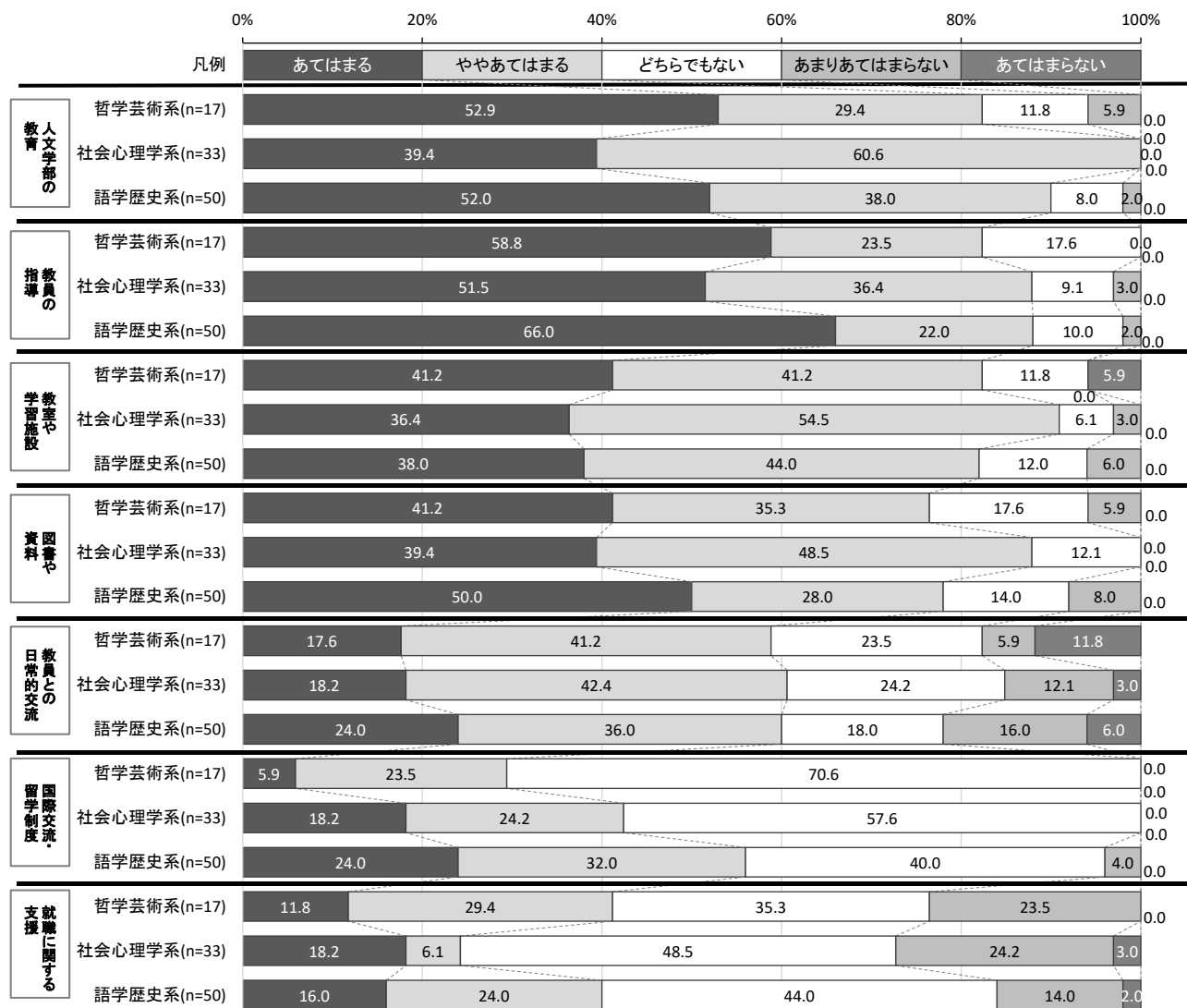
- ・人文学部の教育：人文学部の教育に満足できた
- ・教員の指導：教員の指導は十分であった
- ・教育や学習施設：教育や学習施設に満足できた
- ・図書や資料：図書や資料に満足できた
- ・教員との日常的交流：教員との日常的交流があった
- ・国際交流・留学制度：国際交流・留学制度は充実していた
- ・就職に関する支援：就職に関する支援に満足できた

所属分野ごとの教育目標の達成状況 《クロス集計》

質問番号1：あなたの所属コースをお答えください。 《単数回答》

質問番号3：人文学部の評価に関する以下の項目は、あなた自身にとって、どのくらいあてはまりますか。 《単数回答》

- 人文学部の教育内容等に関する評価について「あてはまる」と回答した割合を所属グループ別に比較すると、哲学芸術系は、「国際交流・留学制度」が他のグループと比べて特に低くなっている。
- 社会心理学系は、「人文学部の教育」が他のグループと比べて「あてはまる」と回答した割合が特に低くなっている。なお、同設問に対しては「ややあてはまる」との回答が多く、「あてはまる」と合わせると100%となり、他のグループと同程度以上の割合を示している。
- 語学歴史系は、「教員の指導」「図書や資料」「教員との日常的交流」「国際交流・留学制度」が3グループの中で「あてはまる」と回答した割合が主に高くなっている。



アンケート上の表現との対応（再掲）

- 人文学部の教育：人文学部の教育に満足できた
- 教員の指導：教員の指導は十分であった
- 教育や学習施設：教育や学習施設に満足できた
- 図書や資料：図書や資料に満足できた
- 教員との日常的交流：教員との日常的交流があった
- 国際交流・留学制度：国際交流・留学制度は充実していた
- 就職に関する支援：就職に関する支援に満足できた

(4) 在籍中に経験した国際交流・留学/取得した資格

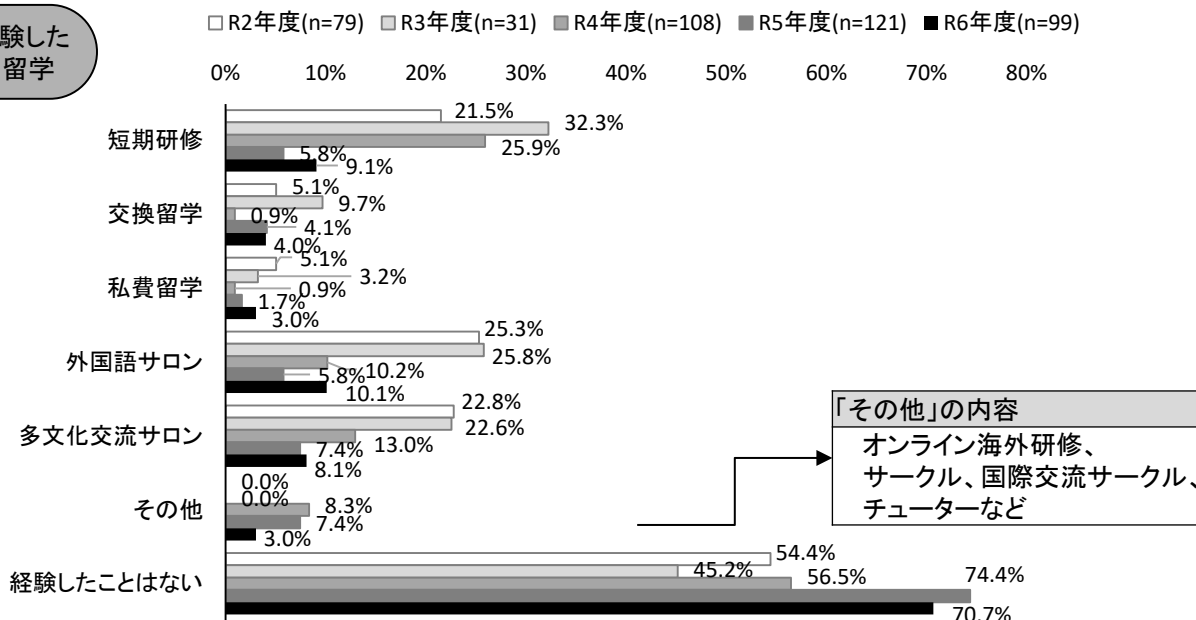
在籍中に経験した国際交流・留学/取得した資格《経年比較》

質問番号4：人文学部に在籍中、あなたが経験した国際交流・留学はありましたか。 《複数回答》

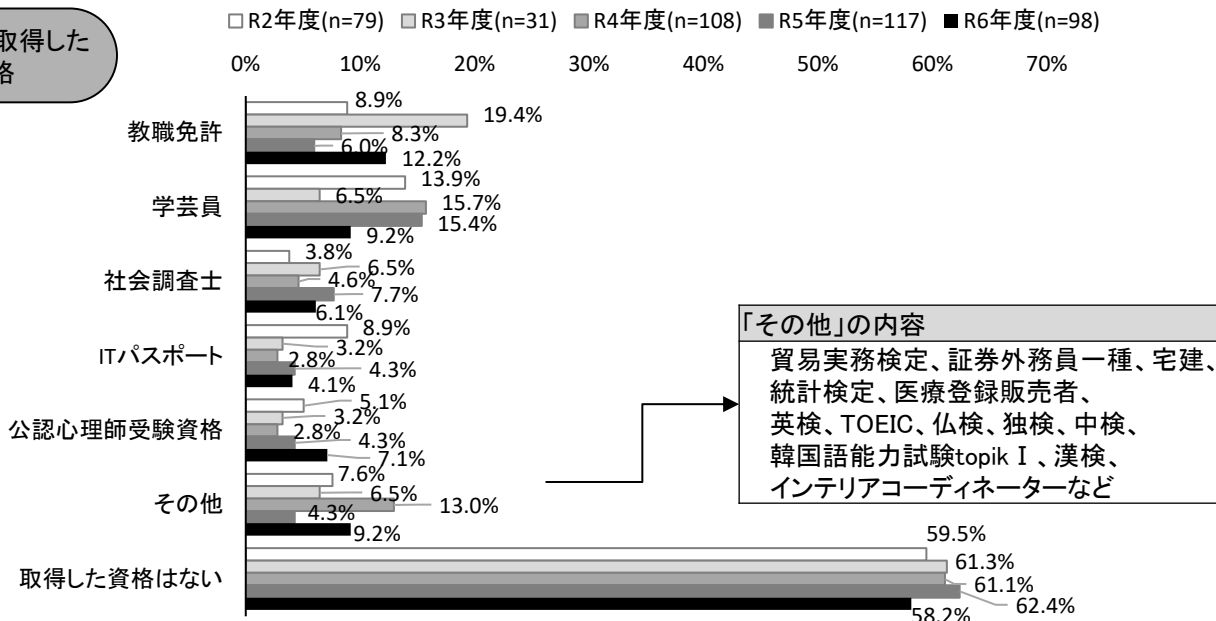
質問番号5：人文学部に在籍中、あなたが取得した資格はありましたか。 《複数回答》

- 経験した国際交流・留学は、ほとんどの項目において令和2～3年度をピークに令和4～5年度にかけて減少傾向にあったが、令和6年度は「その他」を除く全ての項目で令和5年度と比べて増加もしくは横ばいとなっている。
- 取得した資格では「教員免許」が12.2%と最も高くなっている。一方で令和4～5年度にかけて15%以上あった「学芸員」を取得した割合が10%以下に減少している。
- 在籍中に何らかの国際交流・留学経験が「ない」とする回答は70.7%、取得した資格が「ない」とする回答は58.2%であり、いずれも令和5年度と比べてやや減少している。

在籍中に経験した 国際交流・留学



在籍中に取得した 資格



所属分野ごとの国際交流等の経験、資格取得の有無 《クロス集計》

質問番号1：あなたの所属コースをお答えください。 《単数回答》

質問番号4：人文学部に在籍中、あなたが経験した国際交流・留学はありましたか。 《複数回答》

質問番号5：人文学部に在籍中、あなたが取得した資格はありましたか。 《複数回答》

- 在籍中における国際交流等の経験、資格の取得状況について、所属分野ごとの経年変化をみると、何かしらの経験をした割合は、「社会心理学系」「語学歴史系」は令和5年度より5ポイント前後上昇した。
- 在籍中に資格を取得した割合は、「哲学芸術系」は令和5年度と比べ約18ポイント上昇、「社会心理学系」「語学歴史系」は微増傾向にある。
- 一方で、経験も資格取得もしていない割合をみると、令和5年度と比較すると、「哲学芸術系」は約8ポイント減少した一方で、「語学歴史系」は約7ポイント増加した。
- 「語学歴史系」においては、経験或いは資格取得した割合、どちらもしていないとする割合がいずれも増加していることから、傾向の二極化がやや見られると言える。

「在籍中に国際交流などを経験した」、「在籍中に資格を取得した」、「どちらもしていない」の割合(%)
(令和3年度はN数が少ないため省略)

		在籍中に国際 交流などを経 験した	在籍中に資格 を取得した	どちらもして いない
哲学芸術系	R2(n=12)	50.0	58.3	8.3
	R4(n=11)	27.3	36.4	54.5
	R5(n=17)	17.6	17.6	64.7
	R6(n=17)	17.6	35.3	52.9
社会心理学系	R2(n=21)	23.8	61.9	19.0
	R4(n=29)	31.0	37.9	44.8
	R5(n=39)	12.8	41.0	48.7
	R6(n=33)	18.2	45.5	45.5
語学歴史系	R2(n=46)	54.3	30.4	34.8
	R4(n=61)	42.6	32.8	37.7
	R5(n=63)	33.3	34.9	34.9
	R6(n=50)	38.0	36.0	42.0
合計	R2(n=79)	45.6	43.0	26.6
	R4(n=101)	37.6	34.7	41.6
	R5(n=119)	24.4	34.5	43.7
	R6(n=100)	28.0	39.0	45.0

人文学部に在籍したことによる、進路選択への影響

質問番号6：人文学部で受けた教育や獲得した能力は、あなたの進路選択に、どのように関係・影響したと思いますか。
《自由記述》

専門知識・資格(9件)

社会そのものについてたくさん学べましたし、言語や知識そのものを獲得できたと思います。

大学で心理学を学ぶことで、心理職に就きたいと思うようになった。

大学院終了後に教職に就くという道ができた

大学院進学を考えるきっかけとなった。

学芸員という選択肢が増えた。

ゼミ等の専門的な学習により、より深く研究を続けていく能力が培われ、大学院進学につながった。

芸術コミュニケーションを学び、地域と博物館の分野をつなぐことに関心を持ち、公務員を志した。

教員になる選択肢が将来進む進路に増えた

就職で使用した

思考力(6件)

コミュニケーション能力と柔軟な思考力を身につけ、これからの人生全般的に、又は生涯的に活せると思い、さらに向上していきたい。

批判的に考える力を培ったことで、自分の身近な存在であった農業の問題点を考えることができ、農業に関連した職業に就くきっかけになったと思う。

自己分析であったり、自己表現であったりの、思索を要する活動時にかなり有用であったと感じる。

物事を深く考える能力がついたことで、自身についても深く考えることができた

自己の考えを整理し、分析する力が養えられたことで、自身の将来についても分析することができた

多面的に考える力

開拓力(1件)

新卒での就職後も、自分の進む道は選択し続けていくものであると考えるようになった。

メディアリテラシー(2件)

正確な情報を収集・吟味する力や、初修外国語の学習が就職においてプラスになった

普段SNSを見ていて、論理的に間違っていることなどによく気づくようになった

コミュニケーションリテラシー(2件)

コミュニケーション能力と柔軟な思考力を身につけ、これからの人生全般的に、又は生涯的に活せると思い、さらに向上していきたい。(再掲)

企画を進める力やコミュニケーション能力は今後の人生において役立つものになった

外国語能力・文化(2件)

正確な情報を収集・吟味する力や、初修外国語の学習が就職においてプラスになった(再掲)

就職先が外資であり、英語で面接を行った。英語の勉強をしていなければ合格できなかっただろうと考える。

問題解決能力・企画構想能力(2件)

特に問題解決能力が養われ、役立ったと思う。

企画を進める力やコミュニケーション能力は今後の人生において役立つものになった(再掲)

その他(1件)

進路とは特に、やりきる力はついたので活きたかも。

カッコ内の数値は自由記述の回答件数を示している。

広い視野(10件)
就活での業界選択の視野が広がった。
視野を広く持つことができた
様々な分野の授業を受けることができ、視野が広がったと思う。
様々な視点から物事を考えられるようになり、選択の幅が広がった。
歴史を中心にさまざまな学問について学ぶことができ、それによって、社会に対する新たな視点を獲得することができた。そしてそれは、進路選択を考える上で新たな選択肢を見出すことにつながった。
様々な事柄を幅広く学べたことで、多種多様な物事に興味を持つことができ、一つの視点にとらわれずに進路を選べたと思う。
私はむしろ、いろんな道があり、いろんな能力がついたことで、できることが思った以上に広がって、今後どうしていくかを定めきれないようになりました。
何か一つの視点に留まらず、多岐にわたる視点を獲得できると思います。
多様な分野の授業を受けることで、就職先の選択や自己分析の手がかりを増やすことができた
フランス分野だけでなくドイツ語系も興味深いと思った
表現力(8件)
文章を読解した上で自分の考えを表現する能力が養われ、就職の際の筆記試験に活用できました。
自身の考えに根拠をもって、かつ相手に分かりやすいように主張する能力が養われた。これは、相手と話し合う機会に大きく活かされると感じた。
文化情報論で学んだ情報表現で伝えることの難しさとやりがいを実感し、広告系に就きました
考えを言語化する能力。
自分が感じたことを言語化して相手に伝えることが入学前よりもできるようになり、人を相手にする職業に就きたいと思うようになった。
自分の意志を丁寧に表現する能力、丁寧に表現しようと思う心が培われ、人と関わる仕事をしたいと思った。
プレゼン能力やエントリーシートなど文章を考える能力に繋がった
大学の学習で培った表現力が面接試験などで活きたと思う
その他(19件)
人文学部の学びが直接は関係しないが、今後のキャリア形成には影響すると思う。
入学当初思い描いた進路ではないが、確実に生活に活かせる、役に立つものを得られたと感じる。
選択肢を広げてくれたと思う。
芸術への理解が深まったことで、エンタメを志望するようになった。
将来ドイツで仕事ができるかも。
グローバルな環境に適応する力が養われた。
人の支援に関わりたいと思うことができた。
自らの知見を活用・発信する機会に恵まれ、人生における生きがいの一つを見つけることができた。
就職の予定だったけど院進に決めた。
学んだことを社会で活かす方法を知ることができた
自分を見つめ直すきっかけになった
自由に、自分のやりたい、関心のある事柄を探ることができた
公務員を考えていたが、より広い世界に出たいと考え、一般職に志望を変えた
人間が人間らしく生きるための進路選択ということを考えるきっかけをいただきました
学んだものを、より深く多く学びたいと考えさせられた
人間関係で役立った
直接お金に結びつかない豊かさがあるということを知れた。
様々な人や学問に触れることで、自分の知見や教養を深めることができた
色々な人がいて、その人の数だけ人生があることを体感したので、夢を叶えることは出来なかったけれど、将来的に自分で選んだ道を正解にしていけばいいということに気づけた
特に関係なかった・影響なかった(12件)
授業は、進路選択には全く影響しなかった。
進路選択をした結果にはあまり影響を与えなかったが、選択肢は増えた。
特になし(10件)

カッコ内の数値は自由記述の回答件数を示している。

(5) 人文学部の卒業論文・教育方針と体制についての感想

卒業論文執筆についての感想

質問番号7：今年度の卒業論文執筆についての感想を、自由にお書きください（良かった点、改善が必要な点など）
《自由記述》

●良かった点

教員の指導(17件)

早い段階から指導をいただき、書き終わられてよかった。
先生に感謝の気持ちでいっぱいです。
先生方による指導の元、満足のいく論文を執筆できた。
指導が具体的で充実していた。
教員のサポートが手厚かった
教授と関わり、助言を得ることができて良かった。
担当してくださった研究室の指導がとても的確かつ丁寧で、お忙しい中でもすぐ返信をしてもらえるなど非常に手厚く支援を受けられました。
教授の指導が手厚く、様々なサポートをしてもらえた
先生方が親身に相談に乗ってくださった点
4年次における卒論ガイダンスはよかった
担当教員が熱心にご指導くださり、困った時とても助けられた。
対面指導が常に行われた
教員の支援を十分に受けることができた
指導教員が手厚くサポートしてくれた
指導を丁寧にしてもらえてよかった
教員からの指導が少なかったが、私としては自由度が高く自分に合っていたと思う
先生にかなり手厚くサポートしていただいたおかげで、より内容の充実した論文を完成させることができた

計画的な論文執筆(1件)

自分なりの問題意識をもって取り組めたのはよかった点である。

図書や資料(1件)

資料室など執筆環境が整っていた。

マイルストーンの設定(3件)

3、4年の合計2回の執筆は大変ではあるが論文形成に余裕ができた。
ブレ卒の存在が良かった
中間報告会を設けていただいたおかげで、執筆形式で迷うことなく、執筆できた

提出の仕方(1件)

提出がオンラインでできたのは良かった

その他(17件)

過去の研究を批判的に検討し、独自の目線で分析できたこと
自分で頑張りました
あまり専門的な研究ができなかったが、自分の興味を探究できた。
大変だったが楽しかった
自由なテーマで執筆できて楽しかった。
大変だったけどやり切れてよかったです。
自分のやりたいように自由にやれた。
自身の興味のある事例を掘り下げることができ、新たな発見ができた。
興味のあることを探究できて楽しかった
とても大変だったが、タメになった
AIの活用について考えるきっかけになった
自分なりの結論を導くことができて満足です
自分が途中で少し病んだため、十分ではないがしっかりと書くことはできた
大変だけど楽しかった
大変だったが完成して良かった
大変だったが、先生や調査対象者の皆さんに支えられて一年かけて力を入れて取り組んだ
自分が好きな作品を取り上げた。執筆にあたりさまざまな資料に目を通したことで、作品自体への理解が増して楽しかった。

卒業論文執筆についての感想

質問番号7：今年度の卒業論文執筆についての感想を、自由にお書きください（良かった点、改善が必要な点など）
《自由記述》

●改善が必要な点

教員の指導(6件)
所属ゼミ間での教員の指導方針に差がありすぎると感じた
何もできずに終わった1年があったので、完全に自己責任ではあるが、改善するならついてこれていない学生の救済に関する部分だと思う。
教員ごとに評価が異なりすぎる
学部全体で書き方について指導がほしい
指導方法にゼミや学年によって差があるように思う
担当教員となかなか連絡が取れず、執筆に苦労した
計画的な論文執筆(14件)
計画的に進めておけば、もっと内容を深められたと思っています。
もっと入念に準備したかった。
考察をもっと考えたかった。実験手続きをより良くしたかった。
論文の書き方についてしっかり学習しておくべきだった
研究にふれることがもっと必要だった
卒論と就活を同時並行で行うのは大変だった。
データの処理自体に時間がかかり、分析があまりできなかった
計画的に進めることが重要であった。
自分で計画し、実行するのが難しかった。
当初のプランより扱う作品が少なくなってしまったのは心残りだった。
取りかかりが遅く、研究手段や論文内容の精査が不十分だったことが悔やめます。
1年の頃からテーマを発見して長期間取り組むべきだった
もっと早くに行動
もう少し早期から取り組むべきだった。
マイルストーンの設定(6件)
卒業論文を強く意識できる機会が早めにほしい。
題目決めの期限がはやくて困った。
題目の提出が4月で修正もしずらいのはおかしい。
題目の決定日時を、もっと早めに教えてほしかった
4月に題目提出でいいのか
題目を4月に決定するのが大変だった
コミュニケーション・交流(5件)
研究室ごとでなく横断的な共有の場を設けても良いと思う。
担当教員との連絡はもう少し密にするとより良かったと考える。
自分が今何に悩んでいるのかが分からなくなり困惑していたのが悔しかった、もっと指導教員を頼り、打ち明けるべきだった
定期的に人と会えるとよかった
もう少し指導教員と密に相談すべきだった
図書や資料(1件)
松本市文書館に通うのが大変でした。
提出の仕方(1件)
人によっては細かく提出させたほうが良い。
その他(8件)
フランス原稿の調べが大変だった。
大変だった。
一言でまとめると大変でした
非常に大変だった
むずかしかった
やりきることができなかった
英語で書くのは難しかった
もう少しやれたし、焦らずやれたからよかった

カッコ内の数値は自由記述の回答件数を示している。

人文学部の教育方針・体制についての感想

質問番号8：人文学部の教育方針・教育体制・学習環境についての感想を、自由にお書きください（良かった点、改善が必要な点など）。《自由記述》

●良かった点

学習分野に関すること(8件)

横断的に、広範にわたる学問にふれることができて楽しかった。
1年次に自分の興味・関心と十分に向き合い、考えることができる点が良かった。
様々な学びができてよかった。
自主的な学びに任せるという方針はとても自分に合っていたので不満はない。
学びたい物事に対して、正面から詳しく研究する姿勢があり、よかった。
自由で領域横断的な学習ができる環境が良かった
全コースの授業をとれるのが楽しかった
他分野のことを気軽に学べるのは良いと思う

コースや履修選択に関すること(6件)

2年次にコースを選択できる点がよいと思う。
他コースの授業も容易に受けやすく、とても良かった。
コース制に移行してすぐだったこともあり、学生と教授間でまだ不慣れな面があったと感じるが、全体を通してかなり親身になってくれたと思う。
一年目で多様なコースの授業に触れてから入りたいところを選ぶという方針が素晴らしいと思う。間違いや後悔が減る。
様々なコースの授業を受けることができてよかった
2年次で専攻を決めること

教員に関すること(2件)

親身になってくれる先生が多く、環境は十分整っていた。
手厚かった

学習環境に関すること(4件)

自由度が高く、興味のあることを突き詰められる環境だと思います。
自分の分野の本が足りない部分もあったため、より自由な資料環境が必要だと考えた。
自分で進めていける人は進めていける、自発性が求められる環境だと思う
自由度は高いが、困った時はどこに頼ればよいかわ明瞭でよかった。

その他(11件)

卒論発表をポスターで使うのはとてもよかった。
自由なカンジがとても好き。
お世話になりました、ありがとうございました。
全て良かった。
満足しています。
おおむねおおらかに学習できた
あくまで学生本人が主体であることをつらぬいていて、とてもいいなと思います。
非常によかったと思います
授業は楽しかった
自立、自律が重要視されよいと思う
良かった

人文学部の教育方針・体制についての感想

質問番号8：人文学部の教育方針・教育体制・学習環境についての感想を、自由にお書きください（良かった点、改善が必要な点など）。《自由記述》

●改善が必要な点

学習分野に関すること(3件)

もっと多種多様な授業を受けてみたかったです
歴史学全体で討論する機会があればよかったと思う。
他の分野についてももう少し深く学ぶ機会があると良かった

コースや履修選択に関すること(9件)

コース制より分野制の方が複数の先生の指導を受けられてよかった
教育カリキュラムが年度によって変更になったときに、対象でない学生にも説明があった方が、サポートの違いが分かったと感じた。
前期の内に単位の調査をするべき
コース分けが2年からはよくない。入学時に決めといてほしい
学芸員資格取得にあたって、主に実習についての説明がもう少し詳細に知りたかったです。
編入生に対して少し単位認定が厳しい
広域履修プログラムが分かりづらい
クラスの実存意義があまり感じられない
コース選択の情報をもう少し提供してもらえるとよいと思った。

教員に関すること(2件)

語学の指導教員の改善を求めた
教員から必要なメールの返信がないことが何度あった

学習環境に関すること(11件)

他学部設備を使わせてもらう上で、時間ごとの料金が気になり準備を十分に行えなかった。
人文ホールは結局あまり使わなかった。
資料室にエアコンがほしい
人文ホールにコンセントがもう少し充実しているとより良かった。
実験室の暖房の効きが弱いのが少し困った。
学部棟が少々古い(一部トイレなど)とは感じた。
教室が狭い、くつろげる空間がもっとほしい
出席システムの存在意義が怪しい
人文学部棟の建物が寒かった
学部の中にコミュニケーションスペースのような、グループワーク向けの自学スペースが欲しい
冬は人文棟がかなり寒いので、暖房設備を充実させてほしい

その他(3件)

研究室の活動がなかったことが心残り。
結びつきがやや緩やかだと思った。
教音を扱う人がいるとうれしい

進級・学び・研究室での指導等についての感想

質問番号9：コースへの進級や学び、研究室での指導についての感想を自由にお書きください（良かった点、改善が必要な点など）。《自由記述》

●良かった点

学習環境に関すること(9件)

研究室の雰囲気は良かったです

自分とは異なる関心を持つ人々との討論ができ、広い視野で研究に取り組めたことがよかった。

議論する時間が多く楽しかった

様々なタイプの先生がいておもしろかった。

穏やかで和やかな環境で過ごすことができました

同コースの学生や教員と接する機会が多く満足感がありました

自主的に動くべき環境下だったことが、私の肌に合っていた

幅広く学べる

文情はやりたいことをとことんやらせてもらえて、とても楽しく充実したものでした。

教員に関すること(22件)

寄り添った指導をしていただいた。

コースの先生方は大変お世話になった。進路相談や、それぞれのゼミメンバーの様子もよかった。

指導教員との対話が深い学びとなった。

先生が絶対否定せずにいてくれたのでとても楽しく研究できました。

プライベートな時にも参加してくれたから話しやすかった。

なんでも相談させていただいてありがたかったです。

頻度は他の研究室より少なかったが、自分のペースで進められたのでそれが良かった。

充実した指導を受けることができた

すぐ相談できる体制が整っていて過ごしやすかった。

先生は卒論など相談に行った際とてもよく接してくれ、学びを深められた。

かなり多くの面で担当教員の助けを必要としてしまったが、結果として満足のある程度いく卒業論文を作ることができ、大変感謝している。

とても面倒見がよく、最後までたくさん指導していただいた

丁寧に向き合っていただけと思う

分からない点を詳しく教えてくださり、大変感謝しています

定期的に先生が相談に乗ってくださったおかげで発表資料作りや卒論の執筆をモチベーション高く行うことができた

素敵な先生方に指導いただけて本当に感謝しています。

指導教員の先生方にとてもよくしていただいた

先生はよく指導して下さった

とても丁寧でたすかりました

細かい部分までしっかりと指導してもらえてよかった

自分の考えを尊重した指導をしていただいた

授業の内容で困ったことがあった際、気軽に先生に相談できる環境があった点が良かった

配属にあたっての制度(5件)

コースでは興味のある分野を幅広く学べた。

2年次からのコース選択は1年生での適性の見きわめができ、良かった。

分野に関する十分な学習ができるカリキュラムだと思った。

コースを柔軟に変更できる制度があっても良いと思います

1年生の間にゆっくりとコースを選択できたことが良かった

その他(7件)

自ら動かなければならないため、その心構えができないと危なかった。

思考力が身についたと思う。

友人たちと深く関わって良かった。

あまり個別に何かがあったとは思わないが、学びたいことが学べた。

お世話になりました

大変だったけど頑張れた

良かった

進級・学び・研究室での指導等についての感想

質問番号9：コースへの進級や学び、研究室での指導についての感想を自由にお書きください（良かった点、改善が必要な点など）。《自由記述》

●改善が必要な点

学習環境に関すること(6件)
歴史学全体で討論する機会があればよかったと思う。
研究室ごとの進ちょくや指導に差が大きかったと思う。
他のコースと違い、資料室が自由に使えなかったので面倒だった。
研究室ごとに差がありすぎる。もっと勉強すべき
ゼミごとに異なる点が多く、指導量・回数のちがいにとまどうことがあった
コースの中で、学習の質ではなく、学習のサポートの質に差が見られた
教員に関すること(2件)
指導体制が教授ごとにバラバラなので、もう少し統一性があってもよいと思う。
必修と研究室の授業は被らないようにしてほしい。
配属にあたっての制度(11件)
1年次から2年次の時、一番入りたいコースに入れない場合がある。それは人文学部の特徴であり、落ちた人生にとって人生の挫折の経験にもなれるだろう。
コース制にする意義を感じなかった。
研究室が固定されるよりも先輩方のような分野の方がいろいろな人と関われた気がする
他コースの演習をうけてみたいと思うことがあった。
研究室制度に変わったことや、それ以前の学生へのサポートはどのようなものかの説明がほしかった。
進級でコースにつき、その後研究室も決める中で、各コースのことを知る機会はやや少ないまま配属先を決めることになるのが少し気がかりでした
コース面接で圧迫面接されたので改善したほうが良い
2年生時点で3・4年の研究室配属が正直ほとんど決まったようなものなので、途中での進路変更をしたい人にはコース→研究室のシステムが整備されていないように感じた。
面接結果で全然異なる進路になるのには改善が必要
1年で考える時間があるのはうれしいがそれでもある程度焦点化しないと希望に進級できないのが残念
1年次のときに興味のある分野があり、コースを選んだが、実際にそのコースに入ると思っていたことと違い少し戸惑った。
その他(3件)
教授とのやり取りがあまりできなかったことが反省点です。
参考文献や今後全体の方針にもう少し具体的なものがあると良かった。
先生が多忙すぎて心配になった

カッコ内の数値は自由記述の回答件数を示している。

(6) リモート授業・ICT環境の評価

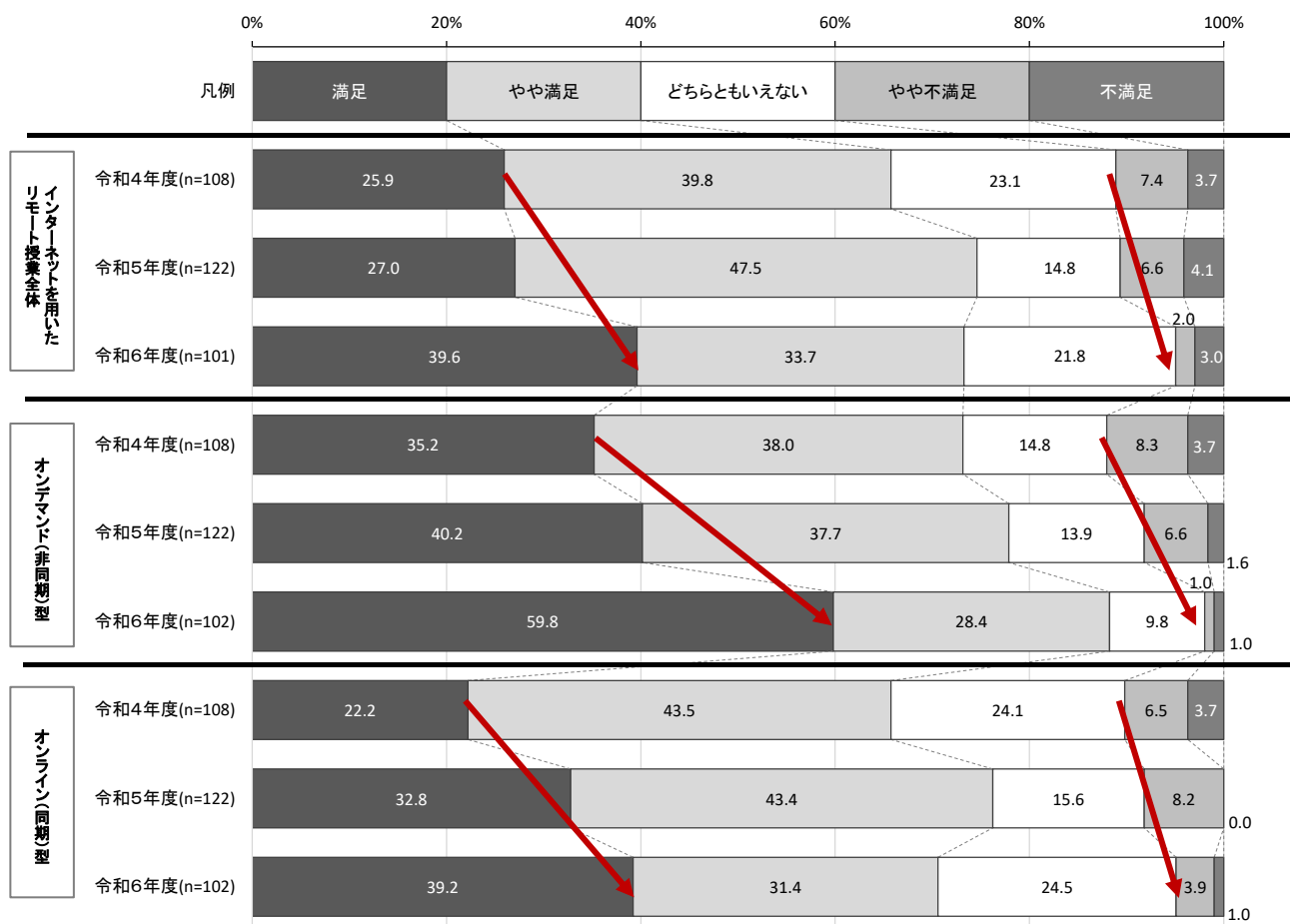
リモート授業の評価

質問番号10：在学中に受講した人文学部のインターネットを用いたリモート授業について、全体として、あなたはどのくらい満足していますか。《単数回答》

質問番号11：在学中に受講した人文学部のリモート授業のうち、オンデマンド（非同期）型について、あなたはどのくらい満足していますか。《単数回答》

質問番号12：在学中に受講した人文学部のリモート授業のうち、オンライン（同期）型について、あなたはどのくらい満足していますか。《単数回答》

- 在学中に受講したリモート授業の評価としては、リモート授業全体、オンデマンド（非同期）型、オンライン（同期）型のいずれも、「満足」と回答した割合は年々増加している。また、「やや不満足」「不満足」を合わせた割合は年々減少している。
- リモート授業に対する「満足」「やや満足」を合わせた割合は73.3%となっており、令和5年度と比べると横ばいとなっている。
- オンデマンド（非同期）型に対する「満足」「やや満足」を合わせた割合は令和5年度から10.3ポイント増加し88.2%となっており、直近3年間で最も高い。なお、オンライン（同期）型に対する「満足」「やや満足」を合わせた割合は令和5年度よりもやや減少し、70.6%となっている。
- 「満足」の割合は、オンデマンド（非同期）型がオンライン（同期）型に比べて20.6ポイント高い。

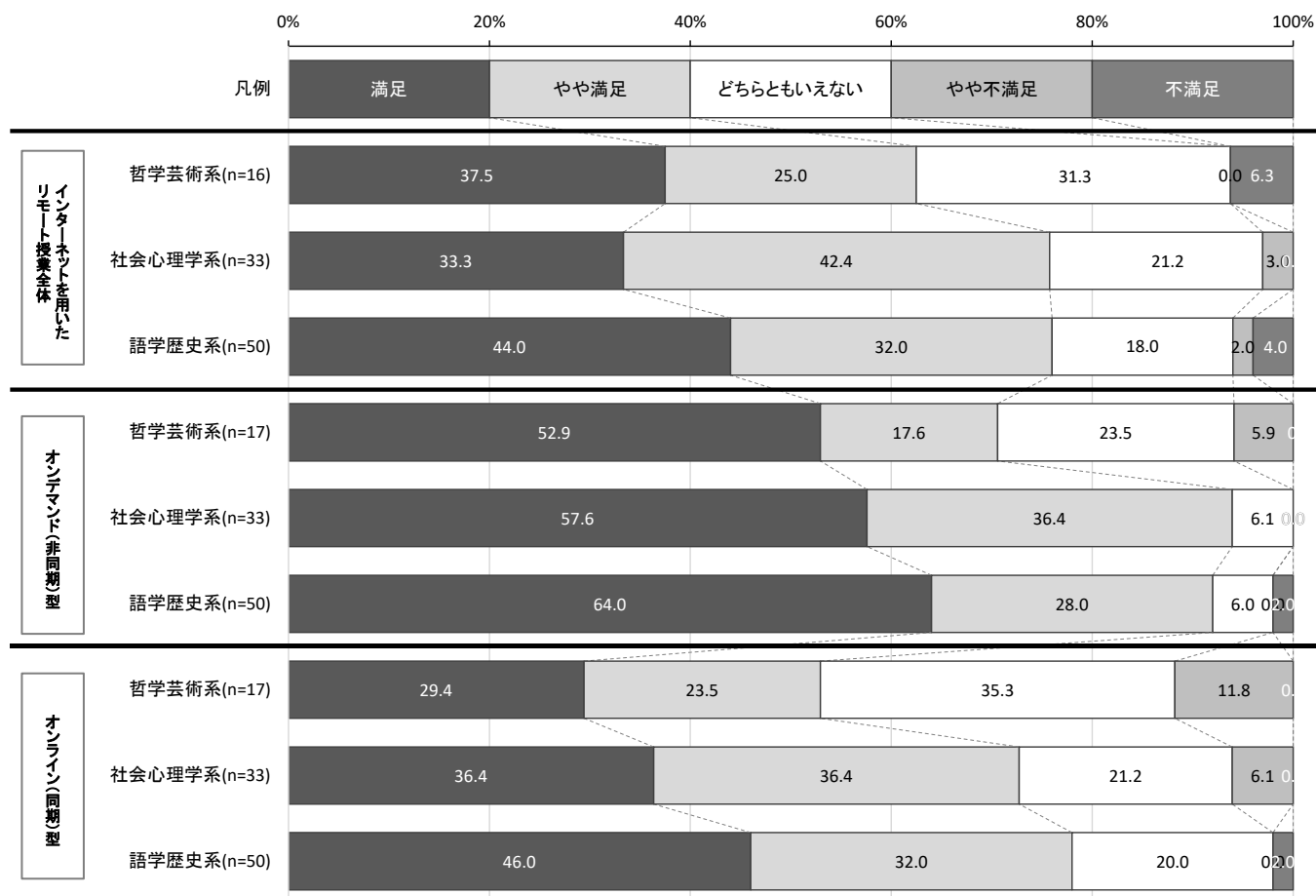


リモート授業の評価 《クロス集計》

質問番号1：あなたの所属コースをお答えください。 《単数回答》

質問番号10：在学中に受講した人文学部のインターネットを用いたリモート授業について、全体として、あなたはどのくらい満足していますか。 《単数回答》

- 在学中に受講したリモート授業の評価を所属分野別にみると、「満足」とした割合は「語学歴史系」が44.0%と最も高く、「社会心理学系」が33.3%と最も低くなっている。「満足」「やや満足」を合わせると、「哲学芸術系」が他の分野に比べ約15ポイント低くなっている。
- オンデマンド（非同期）型、オンライン（同期）型についても、同様に「語学歴史系」において「満足」とする割合が最も高くなっている。



質問番号10：在学中に受講した人文学部のインターネットを用いたリモート授業について、全体として、あなたはどのくらい満足していますか。 《単数回答》

質問番号16：人文学部のICT環境（Wi-Fiなどのインターネット環境を含む）について、あなたはどのくらい満足していますか。 《単数回答》

※質問番号16の集計結果はP.30に掲載。

- リモート授業の評価をICT環境の満足度別にみると、ICT環境の満足度を「満足」としている回答者において、リモート授業の満足度は「満足」としている割合が最も高く、「やや満足」においても同様のことが言える。ICT環境の満足度を「どちらともいえない」「やや不満足」「不満足」とした回答者は、リモート授業の満足度を「満足」「やや満足」とする割合に大きな差は生じないが、リモート授業の満足度を「不満足」とした層は、ICT環境の満足度を「不満足」とした回答者に多くなっている。

単位：％

		リモート授業の満足度				
		満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満足	不満足
ICT環境の満足度	満足(n=19)	78.9	15.8	5.3	0.0	0.0
	やや満足(n=18)	22.2	66.7	11.1	0.0	0.0
	どちらともいえない(n=21)	33.3	23.8	33.3	4.8	4.8
	やや不満足(n=21)	32.1	39.3	28.6	0.0	0.0
	不満足(n=28)	30.8	23.1	23.1	7.7	15.4

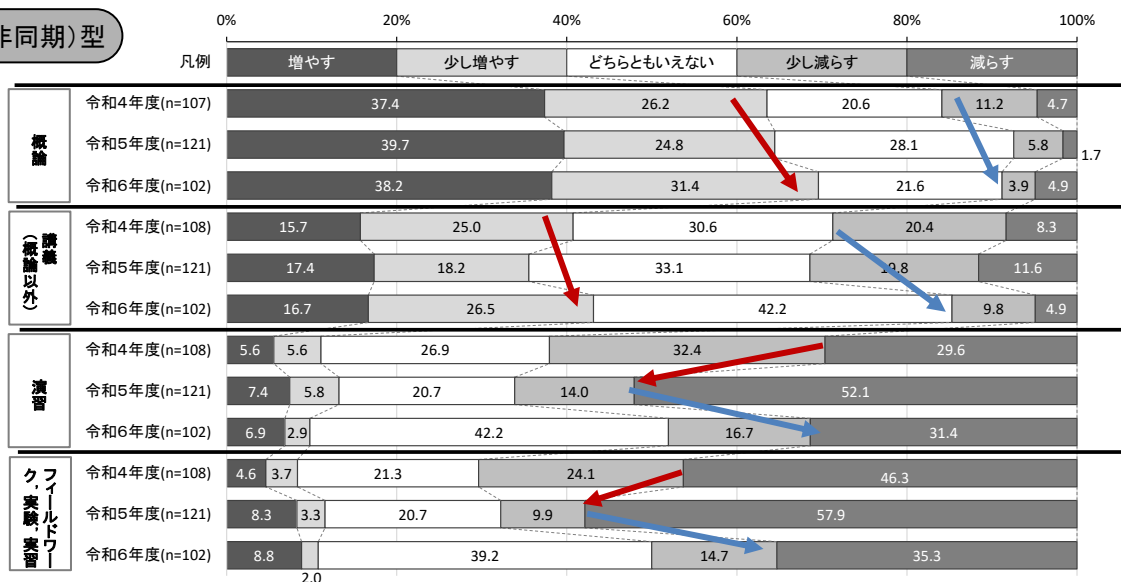
今後のリモート授業の回数

質問番号13：人文学部の以下の科目に対して、あなたは、オンデマンド（非同期）型を、今後、増やした方がよいと思いますか。それとも、減らした方がよいと思いますか。 《単数回答》

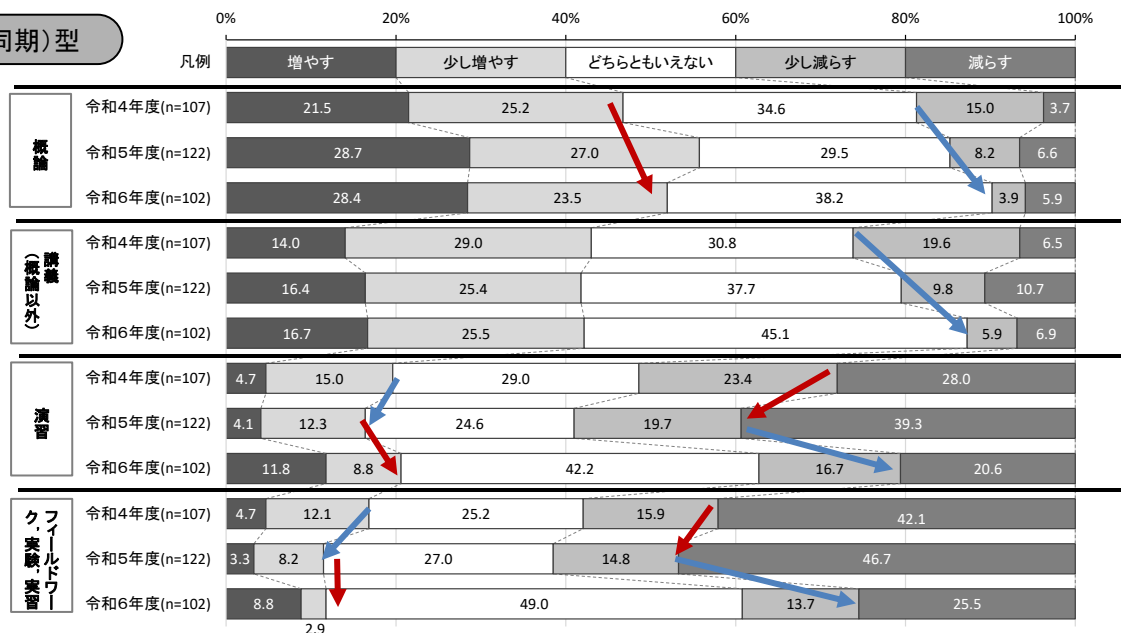
質問番号14：人文学部の以下の科目に対して、あなたは、オンライン（同期）型を、今後、増やした方がよいと思いますか。それとも、減らした方がよいと思いますか。 《単数回答》

- 今後のオンデマンド（非同期）型・オンライン（同期）型ともに、「増やす」「少し増やす」を合わせた割合は、「概論」が最も高く、「演習」「フィールドワーク、実験、実習」が10%前後と低くなっている。
- 直近3年間で比較すると、オンデマンド（非同期）型、オンライン（同期）型ともに、「概論」「講義（概論以外）」は「増やす」「少し増やす」を合わせた割合が概ね増加傾向を、「少し減らす」「減らす」を合わせた割合が減少傾向を示している。
- 「演習」「フィールドワーク、実験、実習」を「少し減らす」「減らす」と回答した割合は、オンデマンド（非同期）型では約半数、オンライン（同期）型では約4割となっている。また、直近3年間を比較すると、「演習」「フィールドワーク、実験、実習」を「減らす」とした割合は、オンデマンド（非同期）型、オンライン（同期）型ともに、令和4～5年度にかけて増加したものの、令和6年度には減少した。

オンデマンド（非同期）型



オンライン（同期）型



今後のリモート授業の回数 《クロス集計》

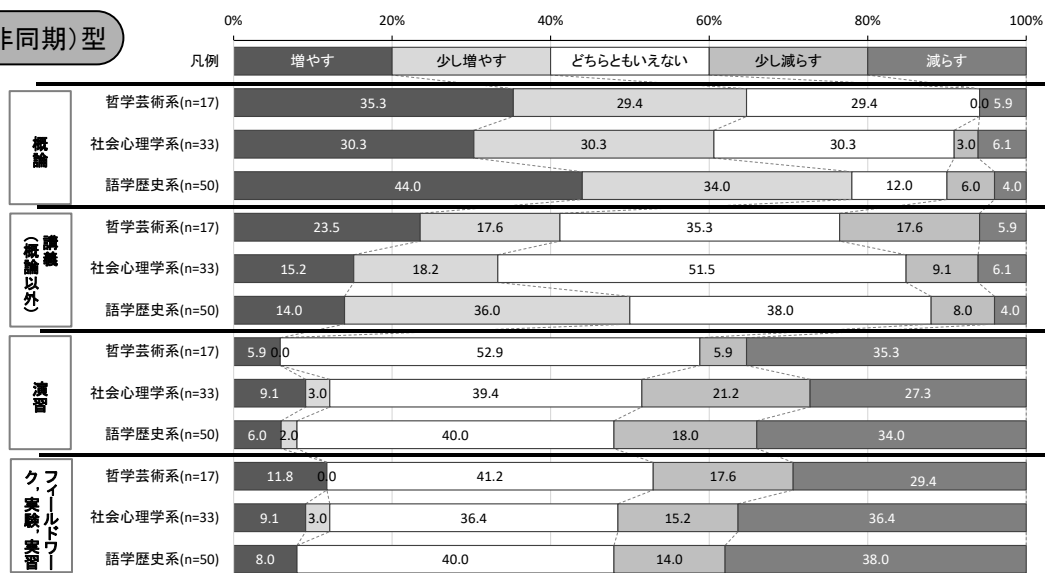
質問番号1：あなたの所属コースをお答えください。 《単数回答》

質問番号13：人文学部の以下の科目に対して、あなたは、オンデマンド（非同期）型を、今後、増やした方がよいと思いますか。それとも、減らした方がよいと思いますか。 《単数回答》

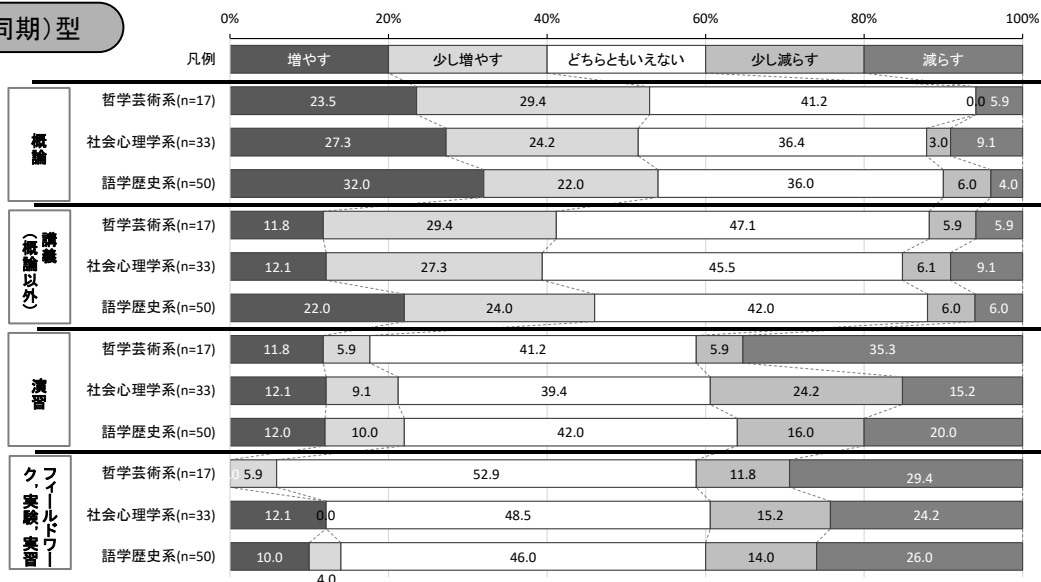
質問番号14：人文学部の以下の科目に対して、あなたは、オンライン（同期）型を、今後、増やした方がよいと思いますか。それとも、減らした方がよいと思いますか。 《単数回答》

- オンデマンド（非同期）型の頻度のニーズを所属コース別にみると、「概論」「講義（概論以外）」を「増やす」「少し増やす」と回答した割合は、「語学歴史系」でやや高く、「社会心理学系」でやや低い傾向にあった。「演習」「フィールドワーク、実験、実習」は所属コース別に大きな傾向の差は生じていない。
- オンライン（同期）型の頻度のニーズを所属コース別にみると、「増やす」「少し増やす」の割合は大きく変わらないものの、「増やす」のみをみると、「概論」「講義（概論以外）」「語学歴史系」において高く、フィールドワーク、実験、実習では「哲学芸術系」では回答者がいなかった。

オンデマンド（非同期）型



オンライン（同期）型



リモート授業・指導についての感想

質問番号15：あなた自身が体験したリモート授業・指導についての感想を、自由にお書きください（よかった点、改善すべき点など）。 《自由記述》

●良かった点

学習方法や授業に関すること(38件)

リモートで受講できることで、様々な種類の講義を受けてみようと思えるところがありました。
初回がオンデマンドでどれでも見られたのはよかった。
概論系は自分のペースで進められてよかった。専門科目の座学もリモートでくり返し見られてよかった
オンデマンドはいつでも見ることができてよかった
概論などの基本的な内容を手軽に復習できる点がよかった
オンデマンドは分からないところを何回も見れるから耳からの情報に弱い私はとても助かりました。
ゼミはやりやすかったです。現状満足です。
自分のペースで進められるのがよかった。
リモート授業でも、本来の時間枠やその他のタイミングで気軽に質問できるようなシステムにしている先生が多く、とても助かりました。
オンライン授業、オンデマンド授業のおかげで、「繰り返し学ぶ」ということがしやすくなりました。
概論や他コースの授業で知見を深める点ではハードルが低く、気楽にできた。
教室の混雑を避けられる点が良かったと思います。
動画配信型の授業は、理解できなかった時に繰り返し視聴出来て良い
オンデマンドを何度も見直せるので、参考にできた
リモートかオンデマンドだと対面よりもハードルが低く、受けやすい。

コミュニケーションに関すること(2件)

意見交換もできたので良かった
グループ活動があると、リモートでもよかった

行動の自由度(17件)

朝や夕方などに家から受けることができたので便利だった。
オンデマンド型はいつでも受講できて便利だった。
生活スタイルと合っていて、受けやすかった
自分のタイミングで受講できるオンデマンドは良かった。
講義を受ける時間を柔軟に選択できる点が良かった
時間や場所について、やや自由になる選択肢が増えるのは良かった。
オンデマンド型は個々の生活スタイルに沿った学び方であるため、柔軟性という面で大変よいと思った。
家にいながら講義を受講できるのはよかった。
オンデマンドは融通が利いて良かった。
どこからでも受講できたのは良かった
冬は登校が大変なのでリモートだとありがたかった。
自宅で見れるのでよかった
自分のタイミングで授業を受けられるのは良い点。
リモート授業に関しては大学に行く手間を省いた分、勉強に時間を使うことができた
オンデマンド授業は好きな時間に自分のペースで受けられるので、スケジュール管理がしやすくなって便利だった。

その他(6件)

オンデマンドは良かったです
全体的にとっても良かったです。改善点が思いつきません。
初期は慣れていないため、質が悪いものもあったが、2024年などはよかった。
不正がないようにしていた
リモートでも十分よい授業があった
リモートでもしっかりと充実した学びを得ることができた

リモート授業・指導についての感想

質問番号15：あなた自身が体験したリモート授業・指導についての感想を、自由にお書きください（よかった点、改善すべき点など）。 《自由記述》

●改善が必要な点

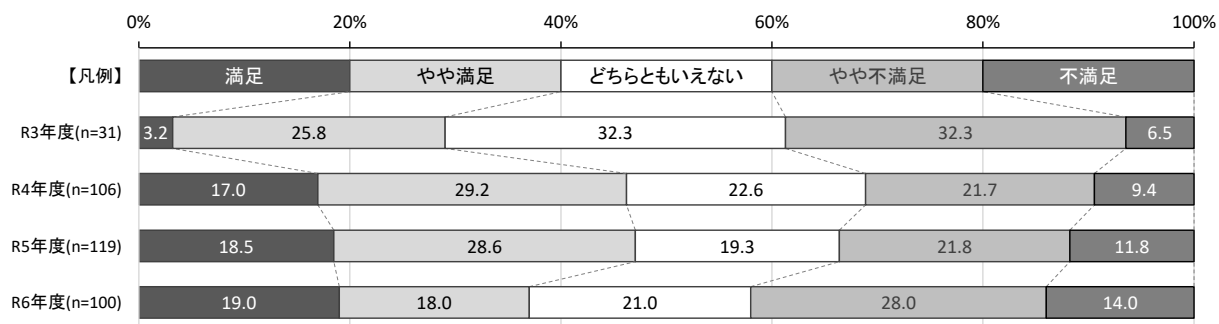
学習方法や授業に関すること(17件)
発表しづらかった
リモートは時間上に調節しやすいが、やはり大学は臨場して学ぶのが楽しいと思う。
グループワークはやりづらい。
オンラインではなかなか人が集まらないように感じた。
リモート授業は、実家暮らしなど1人の時間や静かな空間を確保しづらい人にとって不向きであると感じた。
オンライン(同期)の場合、前後に教室での授業があると、オンライン授業は時間が延びやすいので、遅れそうになったことがある。安易にオンラインだからと時間を延ばさないでほしい。
対面の方がありがたい。
先生の中にまだリモートになれておらず、間のびしてしまうことがある点は改善すべきと思った。
特に大きな問題はなかったが、授業毎のスタンスの違い(カメラやマイクの常時オン/オフなど)が少し気になったため、統一してくれるとありがたかった。
先生によってリモートの慣れ具合が違った
自分の専攻については対面の方が気が引き締まり多くを学べと思う
あまり困ることはなかったが、先生方の不慣れさは改善すべき
課題が多く自分を律するのがとても大変だった
演習のクラスで、教師と話すタイミングが何度か被った
zoomを用いた授業で、必要な資料がチャット欄でのみ共有されるなど後から誰でも閲覧ができない状態だと少し困ることがあった
発言のしにくさを少し感じる
オンデマンド授業の公開期間を「最低の2時間」など一律で設定するべきだと思う
ネット接続に関すること(5件)
音質は改善の余地あり
zoomなどを用いた授業だと、教授ごとの通信環境に左右されやすく、授業を受けにくい場面もあった
仕方ないことではあるが、教員によってインターネット環境の良しあしがあり不平等であると感じる
zoomの扱いが難しかった
zoomが不調になることもしばしばあった
コミュニケーションに関すること(3件)
1年次はすべてがリモートで大学生だという実感がわかなかった。また、授業での人とのつながりが少なく、孤独であった。
話すタイミングが掴めなかったり、対面で話したことがない人と合わなさいいけないので、話し合いが必要な授業は減らすべきだと思う。
授業について同級生とつながりを持ちづらいのが改善点であると思います。
集中力に関すること(6件)
やはり、集中力が欠けてしまう。
オンデマンドの方が参加しやすいが、その分集中力を欠いてしまうので、対策が必要だと感じた。
直接授業を受けた方が集中できた
受ける際のやる気が出るので少ないといい
結局のところ、対面が一番集中できるし知識も身につく、ちゃんと考えようという姿勢でいられるので、コロナが落ち着いた今はすべて対面にすべきだと思う
不満点はなかったが、学生が気を抜きやすい環境だと良くも悪くも感じた。
その他(4件)
対面の方がよい。
eALPSのロックは登録期間後でよいと思う。
楽だがずるもできるシステム
リモート授業と対面授業が連続であるときに、リモート授業をどこで受けるか困った。

カッコ内の数値は自由記述の回答件数を示している。

人文学部のICT環境への満足度

質問番号16：人文学部のICT環境（Wi-Fiなどのインターネット環境を含む）について、あなたはどのくらい満足していますか。 《単数回答》

- 人文学部のICT環境についての満足度は、「満足」「やや満足」と回答する割合は合わせて37.0%である。令和5年度と比較すると10.1ポイント減少している。



人文学部のICT環境についての意見

質問番号17：人文学部のICT環境（Wi-Fiなどのインターネット環境を含む）について、良かった点・改善してほしい点など、ご意見があればお聞かせください。 《自由記述》

●意見

ネット接続に関すること(18件)

Wi-Fiが弱すぎました
Wi-Fiが遅いときがあったので、改善していただけるとより便利になるのかなと思います。
部屋によってはWi-Fiの強さが足りず届いていないことがあった。
自分のPCやsmartphone、iPadがつかない場合がよくある。
つながりにくさ 不安定さ
Wi-Fiが弱くつながりにくい場所がある。
Wi-Fiのつながりが弱かったり、接続まで時間がかかったりした(ログインは含まない)。
Wi-Fiをもう少しつながるようにしてほしいです
演習室でWi-Fiがつながらなかった。
つながらないところがある。
つながりにくい時があった。
ネットがつながりにくい教室があり、不便なことがあった。
人文学部のWi-Fiがつながりにくく、出席確認がしづらいときがあった。
接続状況が安定していない
教室によって接続のしづらさにばらつきがあり、使いづらさを感じた。
Wi-Fiがつながりにくすぎる。
人数の多い教室では、Wi-Fiに接続できないことがあるので、改善してほしい。
Wi-Fiがつながりづらい。
Wi-Fiがつかないことがある。
たまにつながらなかった。
人文棟のWi-Fiがつながりづらいことがある インターネット速さには問題ない。
少しつながりにくいことがあった。
人数が多い授業では場所によって、接続が悪いことがあった。
Wi-Fiの接続がうまくできないことがあるため、接続方法やトラブルシューティングなどの充実をはかるべきだと思う。
毎回繋ぐのがめんどろだった
つながりにくかったり、切れることが多かった。
Wi-Fiが場所によってつながりにくいのは問題であると思う。もう少し強化する必要があるのではないかと感じた。
教室にもよるが、特に人文棟の上のフロアが奥の方(経済棟に近い側)ではWi-Fiなどのネット環境が弱く、つながりにくかった印象があります。
回線が弱い
教室はかなり良かったが、研究室や資料室のインターネット環境があまり良くないタイミングがあったため、安定した接続ができると嬉しい。
階数が上がるとつながりにくい
基本的に遅く、頻繁に繋がらないのはひどい
接続の手引きなどは不足しているように思われる
5階のWi-Fiがよく途切れがち。
実習室で卒論を書きたいのにWi-Fiがつかないのは改善してほしい。
新棟のWi-Fiが何種類もあり、どれがつながりやすいかわかりません。
校内Wi-Fiに接続しにくい時が多く、安心して利用できなかった
接続が悪い
場所によって不安定な接続
つながりにくい
よく切れる
接続しづらい場合があります
実習室にインターネットがあるが、少し弱いので強くなるといい
Wi-Fiのつながりにくさは改善してほしい
小テスト中にWi-Fiが切れることがあり少し困った
Wi-Fi番号が乱立しており、またそれぞれが弱かった。一つでも安定・強力なものを、コースごとに整備してほしい。
ときどきつながりにくい
やや接続が不安定な場所がある
学習環境に関すること(1件)
オンライン授業で声を出してもいい場所を少し増やしてほしい
ログインに関すること(2件)
出席システムがQRコードに変わって手間・うまくいかないが増えた。
パスワード認証がスムーズにできず不便だった

カッコ内の数値は自由記述の回答件数を示している。

3. 卒業生アンケート総括

調査結果の要約

①教育目標の達成状況について

- 「思索力」「受容力」「メディアリテラシー」において、その力が「十分に養われた」「やや養われた」とする割合は9割以上と高い。その一方で、「外国語能力」におけるその割合は約5割であり、最も低い。
- 令和2～5年度にかけては、8項目の教育目標全てにおいて「十分に養われた」を満点とする得点の平均点が増加傾向にあったが、令和6年度は「外国語能力」を除く7項目が令和5年度と比べて減少し、令和4年度とほぼ同水準となっている。

②人文学部の教育内容等に関する評価について

- 「人文学部の教育」に満足できたと回答した学生の割合は9割以上と高い。その一方で、「国際交流・留学制度」「就職に関する支援」を評価した割合は5割以下と低くなっている。
- 教育内容等に関する評価は、令和2年度からの経年比較では、7項目の評価指標のうち、「国際交流・留学制度」は令和3年度以降減少傾向だったが、令和6年度は増加している。その他の6項目は年々増加傾向にあったが、そのうちの4項目（「人文学部の教育」「教員の指導」「教員との日常的交流」「就職に関する支援」）においては令和5年度よりも減少している。

③在籍中に経験したことと取得した資格について

- 何かしらの国際交流・留学を経験した割合は、ほとんどの項目において令和2年度をピークに令和4～5年度にかけて減少傾向にあったが、令和6年度は「その他」を除く全ての項目で令和5年度と比べて増加もしくは横ばいとなっている。
- 取得した資格では「教員免許」が12.2%と最も高くなっている。一方で令和4～5年度にかけて15%以上あった「学芸員」を取得した割合が10%以下に減少している。
- 在籍中に何らかの国際交流・留学経験が「ない」とする回答は70.7%、取得した資格が「ない」とする回答は58.2%であり、いずれも令和5年度と比べてやや減少している。

④リモート授業・ICT 環境の評価について

- 在学中に受講したリモート授業全体について「満足」「やや満足」とする割合は約73.3%となっている。なお、オンデマンド（非同期）型とオンライン（同期）型の満足度を比較すると、「満足」の割合は、オンデマンド（非同期）型がオンライン（同期）型に比べて20.6ポイント高い。また、所属分野別にみると、「語学歴史系」において満足度が高くなる傾向がある。
- ICT環境の満足度はリモート授業の満足度に影響していると考えられる。
- 今後のリモート授業の回数については、オンデマンド（非同期）型とオンライン（同期）型それぞれにおいて、「概論」は増やした方がよいとする割合が最も高く、「講義（概論以外）」「演習」「フィールドワーク、実験、実習」においては「どちらともいえない」とする割合が最も高くなっている。また、直近3年間を比較すると、「演習」「フィールドワーク、実験、実習」において「減らす」とした割合は、オンデマンド（非同期）型、オンライン（同期）型ともに令和4～5年度にかけて増加したものの、令和6年度には減少している。
- ICT環境に「満足」「やや満足」している割合は約37.0%となっている。令和4・5年度と比較すると10.1ポイント減少している。Wi-Fiの繋がりにくさや接続の不安定さを訴える意見が多く寄せられた。

調査結果の考察

■総論:「コロナネイティブ」世代の価値観変化による、新たな教育のあり方の議論が必要

令和元年から始まった新型コロナウイルス感染症の拡大は、人々の生活様式や価値観に大きな変化をもたらした。令和5年度には5類感染症に移行してからも、コロナ前の「当たり前」に戻ったわけではない。本学在学中にコロナの影響を受けた令和2年度以降の卒業生のなかでも、影響を受けた時期により「当たり前」が変化しつつあることが、アンケートからも推察された。

※令和6年度の卒業生は主に令和3年度入学と想定される。在学期間と「コロナ禍」(令和2年4月の新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言から令和5年5月の同感染症の5類感染症への移行までの期間とする)がオーバーラップする期間の長さは、令和元・2年度入学生に比べ短い、令和3年度入学生は、入学当初から「コロナ慣れ」している点がその以前の在學生とは異なると言える。

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
		新型コロナウイルス感染症の主な流行期間				
令和元年度入学 (平成31年4月)	在学期間					
令和2年度入学		在学期間				
令和3年度入学			在学期間			

以下に、要旨を述べる。

①課外活動意欲の再燃と減退…どういった学生像を求めるか？

- 国際交流等の経験をした割合は、令和5年度を底として、わずかではあるが減少から増加に転じ、一定数が課外活動を再開したとみられる。また、資格の取得をした割合も上昇傾向にあり、全般的には積極的に動き出したといえる。参考として、令和3年度の新入生アンケート(P.33)においても、大学生活に期待することとして、「外国語の習得」「グローバルな視点を身につける」の学びに対する意欲がその前の世代よりも高かったと推定される。一方で「語学歴史系」においては、「経験も資格取得もしていない」割合が昨年度から増加した。もともとは意欲を持っていた層が、コロナ禍の自粛ムードを経て、学びの意欲が再燃した層と、減退した層に分かれた可能性もある。「課外活動をしないことが悪」とするのは明らかな間違いだが、「経験」の有無と教育目標の達成度には一定の関係がみられる(P.8)ことから、教育目標達成の向上のためには、意欲を持った層が前向きに課外活動に取り組めるような支援が求められる一方で、学生に対する新たな成果目標を定める検討を開始することも必要といえる。

②演習等における対面の要望の減少…今後、何を大切に授業をしていくか？

- リモート授業、特にオンデマンド型の満足度は非常に高くなっており、自由記述では、「自分のペースで進められる」「繰り返し視聴できる」「通学時間を節約できる」といった点が評価されている。さらに、「演習」や「フィールドワーク」については、「リモート減らしてほしい(対面を増やしてほしい)」割合が昨年度までの増加傾向から減少に転じた。対面だからこそ得られる空気感よりも、いかに効率良く学習を行うかを重視する価値観に転換してきている可能性がある。今後、大学として何を軸としてカリキュラムを組み立てていくのか、熟慮が求められる。

※一方で、どのような授業形態をとっていくにしても、ICT環境の改善は授業満足度の向上には欠かせない要素となってきている。